

# 道標 みち

## 令和5年度千葉県県立高等学校

### 第1学年入学者選抜要項が発表されています！！

千葉県教育委員会より入試要項が発表されました。発表された内容は以下のようになっています。

一般入学者選抜 検査 令和5年2月21日（火）・2月22日（水）、発表 令和5年3月3日（金）

第1日目に3教科（国語・数学・英語）の学力検査（国語及び数学は各教科50分、英語は60分・各教科100点）を実施します。定時制の課程で学力検査を実施する教科を3教科と定めた高等学校では、学校設定検査を実施します。

第2日目に2教科（理科・社会）の学力検査（各教科50分、各教科100点）学校設定検査（※8月頃に学校別にどんな検査内容が発表されます。）を実施します。

追検査 検査 令和5年3月1日（水）、発表令和5年3月3日（金）

本検査に出願した者のうちインフルエンザ罹患等のやむを得ない理由により本検査を全く受検できなかった者が対象です。地域連携アクティブスクールの入学者選抜検査・発表とも一般入学者選抜と同日です。

地域連携アクティブスクールとは、中学校で十分力を発揮しきれなかったけれども、高校では頑張ろうという意欲を持った生徒に、企業や大学など地域の教育力を活用しながら、「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を行い、自立した社会人を育てる学校です。

（例）千葉県立流山北高校、県立船橋古和釜高等学校

詳しくは、県の教育委員会ホームページに掲載されていますので、右のQRコードからぜひチェックしてみましょう。



## 第1回実力テスト！！反省をきちんと行おう！！

見落としがちですが、受験生にとってテスト後の反省こそが重要です。なぜなら、テストの結果をしっかりと分析をして、今後の対策を立てなければいけないからです。また、対策は具体的にたてましょう。日々の学習時間、授業の受け方、ノートの取り方、ストレスの発散法など・・・受検までにいくつもの壁を乗り越えてこそ夢の達成に近づきます。同じ過ちを繰り返さない！これこそが重要です。

## テスト結果を分析するときにおすすめ「間違いノート」

テスト結果を分析するときにおすすめなのが、間違いノートを作ることです。間違いノートは各教科で作ったほうがいいです。手順として、まずは間違えた問題をノートに書き出していきます。間違いの種類別に分けて書き出すと、自分の弱点や間違える傾向が見えやすくなります。

- ① 解き方がわからなかった、理解できていなかった問題
- ② 覚えることができていなかった問題
- ③ 解き方はわかっていたが、ケアレスミスをしてしまった問題
- ④ 時間がなくて解ききれなかった問題
- ⑤ 正解はしたが、根拠なしに正解した問題（たまたま正解した問題）

①は、調べたり教科担任の先生に質問したりして解決しましょう。②は、反復練習を繰り返し、覚えなおしましょう。甘く見てはいけないのが③です。「たまたま間違っただけだ」と軽く流さず、しっかり解きなおしてください。そして、どういうケアレスミスをしたか、どうしてケアレスミスをしてしまったのかをよく考え、「ケアレスミスでもミスには変わりない」という自覚をもって再発を防ぎましょう。④は、まずは改めて解いてみましょう。正解できない場合は、先ほどの「①～⑤の間違いの種類」のどれに分類されるか振り分けてください。⑤は、もう一度解きなおし、根拠を明らかにしましょう。また、テスト問題と解答用紙を保存しておくことも大切です。各教科でファイルを用意して、後で見直せるように整理しておくといでしょう。



# 進路選択と自己理解

「どんな職業に就こうかな」「どんな学校に進学しよう」などと、これから考えていくこととなります。いずれを考えるにせよ、大事なことを決めるのは、自分です。周りに流されず、自分にとって良い選択をするために、自己理解は役立つのです。

例えば、以下のことを自分について考えてみましょう。

(1) 人柄・性格 (2) 得意科目・苦手科目 (3) 趣味・特技・興味 (4) その他 (健康状態・家庭の状況など)

今、日本の中学生の98%は進学するといわれています。しかし、残念なことに、年間4万人以上が一度入った学校をやめているというデータもあります。

中学校卒業後の進路選択は、「初めて自分で自分の人生の舵を切る」チャンスです。自己理解を十分にした上で、様々な角度から自分の進路を検討していきましょう。